

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年12月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691500013
法人名	医療法人めぐみ会
事業所名	グループホーム郡
所在地	鹿児島県日置市伊集院町郡1199番地3 (電話) 099-272-1617
自己評価作成日	令和2年11月5日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	-----------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<特に力を入れている点>本人の暮らしを大切にしていける事を目標に、施設側のペースでなく、自分のペースで生活できるように食事の時間・就寝時間・入浴など自由に自分のペースで出来るように支援しています。また、最期まで自分らしくあれるように施設での看取りを行っています。

<アピールしたい点>・市街地にあり、交通の便や生活しやすい環境である。建物も平屋の作りで園庭の先には田園風景が広がっている。ゆっくりした生活を送れるように、平屋の中心に園庭があり、花壇の手入れなど日常的に出来る環境を整えている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、日置市中心地の幹線道路沿いに、平成23年に開設されている。同一敷地に同法人の小規模多機能ホームが併設されており、防災訓練や職員研修、運営推進会議、イベント等を合同で実施し、日頃から情報の共有と協力体制を構築している。両事業所の利用者は中庭で一緒に談笑したり、草花を愛でたり、飼い猫、烏骨鶏を可愛がる等の交流を日常的に行っている。近辺には市役所、小・中・高等学校、医療機関、薬局、保育所、スーパーマーケット、大型電気店等が立ち並んで利便性も十分である。

地域密着型事業所として、地域との交流を大切に取組んでおり、自治会に加入して総会や防災訓練、河川敷の奉仕作業、地域行事等に参加し、認知症や介護に関する講座の実施や施設見学、ボランティアの受け入れ、友人知人の面会、保育所児童との触れ合い等に努めている。地域の人から農産物や多量の手作りマスクを頂くなど良好な関係が構築されているが、現在は新型コロナウイルスの感染予防のため、外出による交流は自粛中である。

管理者及び職員は、ホームの理念を玄関やリビングに掲示し、朝礼での唱和や名札に入れて周知を図り、また、毎月のケア目標も設定して理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。利用者の尊厳や想いを大切に、心身の状態や生活習慣等に配慮しながら趣味や特技など個別の支援も取り入れて、生きがいのある利用者主体の支援に努めている。利用者や家族の要望等を日頃のケアの中や面会時、電話等で把握し、職員会議で検討して改善を図っており、信頼関係が築かれている。

管理者及び職員は、気軽に意見を言い合える信頼関係と協力体制を構築している。管理者は日頃から意見や要望の把握に努め業務改善提案制度も活用して、サービスの向上や働きやすい職場環境の整備を法人代表とも協議しながら取り組んでいる。ケアに対する助言・指導やスキルアップを図る研修の実施、資格取得へのバックアップにも日常的に努めている。休憩時間や有給休暇取得の促進、資格手当、外部研修受講時の勤務や経費の助成制度等、法人の福利厚生や給与体系も構築されて、職員の勤労意欲向上に繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は毎週月曜日の朝礼で復唱し、職員ネームの中にも入れて共有している。	理念は、月曜日の朝礼時に唱和すると共に玄関やリビング等に掲示し、また、職員の名札にも入れて周知を図っている。毎月、ケア目標を定め、申し送りや職員会議等で振り返りや意見交換を行って、理念に沿った支援の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域への介護勉強会の開催や、地域行事や防災計画へ参加など行っている。また、施設での地域行事をして頂くなどしている。	自治会に加入し、地域の情報の把握に努め、総会への出席や防災訓練、イベント、河川敷の清掃等にも参加し、地域の人に認知症や介護に関する講座の開催及び相談等に助言している。日頃の散歩や買い物時には地域の人と会話し、家族・友人の面会や施設見学、ボランティア等を積極的に受け入れ、農産物や手作りのマスクを頂くなど良好な関係を構築しているが、新型コロナウイルスの感染予防のため外出は自粛中である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	前途のように地域で介護勉強会を主催し、包括支援センターや福祉用具会社・栄養士等と共同して地域の介護理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナの影響で開催していないが、自分たちの取り組みなどを議事録にまとめて、意見などを頂けるように説明して代替している。意見を出来るだけ聞き取れるようにしている。	会議は定期的（年6回）に開催し、利用者、家族、民生委員や自治会長、行政職員等が出席して、ホームの現況や利用者の状況、ヒヤリハットや防災に関する報告を行っている。委員からは身体拘束に関する質問や意見、地域の情報等が出されているが、本年度は一堂に会するのを控え、資料を持参して意見をもらい改善を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>推進会議へ参加して頂いたり、コロナなど緊急時での運営の在り方など、常に担当者へ報告・相談を行っている。</p>	<p>介護保険の更新や各種制度の申請、報告に関すること、ホームの運営や利用者に係る相談等を電話や窓口に向いて行い、指導や助言をもらうなど、日頃から協力関係を築いている。行政主催の会合や研修会にも積極的に出席して他施設職員との情報や意見の交換も行って、サービスの改善に繋げている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束排除宣言を事業所入り口に掲げると共に、法人をあげて身体拘束排除委員会を設けて取り組んでいる。玄関や窓等は防犯上の夜間帯を除き、開けるようにしている。</p>	<p>身体拘束の廃止については、運営規定や利用契約書、重要事項に明記し排除宣言も掲示しており、権利擁護を含めた法人全体の研修や職員会議等で意見交換して認識を共有している。また、適正化を目的とした委員会も隔月ごとに開催して拘束の無いケアに取り組んでおり、玄関等は昼間は施錠せず、また、不適切な言葉遣いには、その都度、注意し合う等、改善に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年1回の法人勉強会と、職員の虐待に関する意識チェックを行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>年1回の勉強会を行っている。また、ケアマネを中心に介護保険と関わる制度の確認を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、見学と入居日などの話し合いを行う場を設け、契約書を説明するとともに、その場では疑問点など出にくい為、持ち帰って確認をして頂いて、納得してもらって契約をしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置したり、運営推進会議に家族の意見も伺っている。コロナで面会が難しいことから、オンライン面会も出来るようにして、家族の意見をうかがえるようにしている。	日頃のケアの中での会話や仕草、独自のサイン等で利用者の意向を把握し、家族からは面会や行事、家族交流会、運営推進会議、電話、意見箱等で意見や要望の聞き取りに努め、また、意見を述べやすいように会の開催日にも配慮している。出された要望等は申し送りや職員会議等で検討し、法人本部とも協議してサービスの改善を図っている。コロナウイルスの感染予防に配慮して、面会は窓越しやオンライン、タブレット等を活用している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の業務改善案を意見箱へ提出できるようにしており、意見箱の内容は理事会にかけられて毎月返答され、反映されている。	管理者及び職員は、日頃からコミュニケーションに努め気軽に意見を言い合える信頼関係を構築しており、業務中や申し送り、職員会議時、業務改善提案制度の活用、必要に応じて個人の面談も実施して要望等を把握し、協議して改善に取り組んでいる。スキルアップを図る研修の実施や資格取得へのバックアップに努め、有給休暇の取得や個人的事情にも配慮して勤務シフトを作成する等、働きやすい職場づくりに努めている。研修参加時の助成制度など、福利厚生や給与体系も確立されて職員の就労意欲向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員への処遇改善を行えるように再雇用制度の導入など就業規則を変更したり、勉強会への参加補助制度や資格取得への休日優先など行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の力量に応じて、本人と話し合い外部研修などへの参加をされたり、吸引研修などを行って資質の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>日置市における地域密着型サービス事業所連絡会へ参加している。現在はコロナにて交流が制限されているが、アンケート等を行ったりできる事へは参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活状況に合わせて、ベッド対応や布団対応など環境を整えている。また、職員だけで解決できない要望もある為、家族への連絡がいつでも出来るように、入居後は特に連絡がある旨でご理解を頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを行う段階で、家族と本人それぞれにアセスメントを行う事で、本人への思いなどを共有し、入居後の関係の在り方や役割について協議し入所して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時に、待ち人数を伝え緊急性がある相談に対しては、他のサービスや事業所の空き状況などを確認するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアプランの中でも本人ができることを継続することで、役割などを持って生活できる事を目標に掲げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは施設の中での家族の役割も入所時に説明し、在宅から継続して面会や電話など、家族が支える事をしてもらいながら、居室の環境整備など一緒に考えて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が通われていた馴染みの美容院などへ家族が連れ出して行かれていたが、現在コロナでなかなか、相互の行き来をできていない。	入所時や日頃の利用者との会話、家族からの情報等で利用者毎の馴染みを把握し、体調に配慮しながら散歩や買い物、通院、外食、地域行事の参加、一時帰宅等を家族と協力しながら取り組んでいる。現在は新型コロナウイルス感染症予防のため、外出は自粛中で、面会は窓越しやオンラインで行い電話による対話など工夫して交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新様式の生活スタイルになり、利用者同士の交流が少なくなったが、出来る限り交流が図れるように、職員が間に入ったり、屋外で交流したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が退所・看取りなどでの終了後も、家族との関係性を継続している。家族によっては、現在も運営に協力して下さったり、散歩の途中に自由に立ち寄ってくださっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントでは、本人の好きなことや嗜好、1日の過ごし方や、こだわりのある時間などを把握できるようにしている。	利用者の思いを日頃の会話や独自のサイン等で把握し、生きがいのある利用者主体の暮らしとなるよう家族の意向も伺いながら取り組んでいる。利用者の生きがいである趣味（折り紙、絵画、フットマシン他）や炊事、洗濯物たたみ等の取り組みも、残存機能や体調等に配慮しながら個別に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでは、本人の好きなことや嗜好、1日の過ごし方や、これまでの入居するまでの経緯などわかる範囲で、把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントでは、本人の好きなことや嗜好、1日の過ごし方や、今現在出来る事や意欲など残存機能を把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃ならモニタリング評価を行うときにはケアマネより朝礼や終礼時に聞き取りを行っている。また、計画書作成時には担当職員を中心に評価などを行い、意見を伝えるようにしている。	利用者や家族の意向を把握し、主治医及び看護師の指示やモニタリング等での職員の意見を基に、残存機能や習慣等にも配慮した利用者主体の計画を作成している。ケアの実施状況は、申し送りノートや介護記録、業務日誌等で共有しており、利用者の状態変化時には実態に即した介護計画に修正して改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子を観察・記録し、ご家族に開示して情報を共有してその後の支援に繋げている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>コロナの影響により、理髪店や買い物などをはじめ、面会など自由にできなくなった為、運動機器の導入やオンライン面会など取り入れている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を文書している地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事へ参加したり、家族の方より様々な野菜などが届き、一緒に料理しながら季節感を味わう事ができている。介護勉強会を行う事で地域の方々の交流の場にもなっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>病院受診は、コロナの影響により、家族が主治医変更や、眼科受診を減らしたりされているが、その都度連携をとっている。</p>	<p>本人や家族が希望する医療機関での治療を支援しているが、殆どの利用者が法人母体の協力医療機関を主治医としている。主治医による訪問診療が実施され、他科受信は家族と連携して通院している。ホームの看護師（2人）が主体となって利用者の健康管理や感染症予防に取り組む、協力医療機関との医療連携も密に行われて利用者や家族の安心に繋がっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常的なバイタルの変化や、怪我や身体状況の変化を、職場内看護師に伝えるとともに、主治医のいる病院の看護師と連絡を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院する際には鹿児島県の共有連絡票で連絡するとともに、安心して入院や治療ができるように、家族や病院との連絡を小まめに行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に重度化の確認や終末期の確認を行っている。また、緊急でなく終末期が医師より宣言された時には、その時点で再度、確認を取り直している。</p>	<p>重度化や終末期の対応については重要事項の中で明記しており、入所時に本人や家族に説明して同意を得ている。利用者が重度化した時点で、主治医や職員、関係者、家族は十分な話し合いを行って、可能な限り希望に添った支援体制で取り組んでおり、ここ2年間で7～8件の看取りを実施している。実施後は振り返りや勉強会を行ってスキルアップや不安の軽減を図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署より応急救護の研修を行っている。また、緊急時の勉強会を法人統一のマニュアルを利用し、勉強会を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災訓練は年2回、水害訓練は年1回行っている。訓練を重ねる上で、夜間帯などは特に、近隣の方の協力が必要なため、協力依頼をしている。</p>	<p>年2回夜間発生も想定した火災訓練2回（うち1回は消防署立ち合い）、水害訓練1回を地域住民の参加も得て隣接の小規模多機能ホームと合同で実施し、避難や通報、消火器等の取扱いも研修している。日頃から避難経路の確認や、災害に関する報道を基に意見交換して災害への意識を共有し、近隣の住民との協力体制も構築している。スプリンクラーや自動通報装置が設置され、災害発生時の食料、飲料水等は平常時は法人本部で備蓄し、台風接近や水害等が予測される時点で届けられている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語の使用を徹底する為に、事業所内に目標を掲げるとともに、接遇研修や権利擁護の勉強会を行っている。	利用者の人格や誇りを損ねる事の無いよう言葉かけや対応には、常に敬愛の気持での支援に努めており、法人全体の研修やホームでの勉強会の実施で認識を共有している。利用者の心身の状態や習慣等にも配慮しながら、思いを尊重したケアに取り組んでいる。居室ドアののぞき窓は利用者の意向により塞ぐこともある。居室、浴室、トイレ等はプライバシーが確保された構造で個人記録等も適切に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情、言動を、良く観察しながら意向確認し本人の希望している事を見つけ本人が選択し自己決定出来るよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりでも自分のペースで行える様見守りしている。無理強いしないに様になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出の機会が減ってしまったが、衣替えや洋服の準備などは時間をかけて本人と決めるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ本人の嗜好品を食べられるように主治医の許可をもらうようにしている。また、家族からの持ち込みなども依頼している。	形態、栄養バランス、季節感、嗜好、代替品等に配慮したメニューを法人の管理栄養士が作成し、利用者も一緒に楽しみながらホームで調理している。行事食や手作りのケーキやおやつ、家族との会食、外食、弁当持参の外出など、食事が楽しみなものになるよう工夫しているが、感染症予防のため外食等は中止している。各利用者の食事や水分の摂取量を把握し、口腔ケアもプランに沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録内に水分量を記載して確認を毎日行っている。また、本人が摂りやすい飲み物やゼリーなど、水分量が不足している方へ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けや、義歯の洗浄の声掛け等、管理を行っている。必要に応じて歯科医の受診もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間帯での声掛けを行ったり、各居室内にトイレがある為、自分で行けるように導線確保を行ったりしている。	利用者の排泄パターンや習慣等を把握し、昼間は可能な限りトイレでの排泄を支援しており、各居室にはトイレが設置されている。心身の状況に応じた介護用品やケアの方法を、介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、おむつやパットの使用量が減少するなどの改善が見られている。便秘の予防に食物繊維や乳製品、水分等の摂取や運動量等に配慮し、必要に応じて主治医にも相談して改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内運動や散歩を行っている。また、きなこ牛乳やヤクルトなど本人の希望を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入りたい方や、午前午後など本人の希望を聞き取るようにしている。本人が希望する時には1番風呂や温かい時間帯など調整している。	週3～4回の入浴を基本としているが、排泄時の汚染等は、その都度、清拭や入浴で清潔にしている。予定外の入浴希望にも柔軟に対応し、好みの温度や時間、習慣、同性介助等に配慮し、ゆず湯やしょうぶ湯も実施してゆっくり楽しんでもらっており、入浴後は皮膚疾患の手当や水分補給を行っている。入浴をためらう利用者には、無理強いしないで、時間や職員の変更、声かけ等を工夫して意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間も設けていない為、自分で自由に時間を使って頂いている。一人で不安な時にはホールで寝られる様に環境整備する等支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は看護師だけに頼ることなく、介護職が薬剤情報書を確認して準備し、本人や2人以上のチェックを行っている。また、薬の形態なども状態に応じて変更の相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人がこだわりを持っている時間を聞き取り、残存能力を生かして、興味がある事や、出来る事を生活の中に入れて支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により、不憫になっているが、馴染みの関係が切れないように、美容師を呼んで散髪を行っている等している。また、園庭散歩などは毎日行っている。	心身の状態や天候等に配慮しながら周辺の散歩や小規模多機能ホームの利用者と中庭で談笑し、墓参や一時帰宅、美容室での整髪、外食等を家族の協力を得ながら取り組んでいる。また、季節の花見、ドライブ、地域のイベントの見学なども計画的に実施して、利用者の楽しみとなっているが、現在は新型コロナウイルス感染症予防のため、外出は控えて中庭での散歩やホーム内でのレクリエーションを工夫して気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の同意を得られている方は、紛失などの責任を負えない為、金庫の貸し出しなどを提案したうえで財布などを持たれている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話の持ち込みも可能である。また、電話はオンライン面会などもできるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快な臭いがしないか、照明などが暗くないか等気を付けている。ホールからは季節が感じ取りやすいようにカーテンをなくしている。</p>	<p>廊下や玄関、リビング等の共有スペースは、明るく開放感に満ちて随所に活花や利用者の作品、絵画等が飾られ、また、対面式の台所からは調理の音や匂いが伝わるなど、家庭的な雰囲気である。中庭にはベンチが複数置かれ草花や菜園の野菜、周辺の水田が眺められて憩いの場になっており、リビングにはテーブルセットやテレビ等が利用者の利便性に配慮して設置されている。清掃や空調、衛生管理等も徹底しており、利用者は好みの場所で四季を感じながら平穩に過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>コロナの影響により、それぞれが密にならないようにしているため、現在一緒に過ごす場が屋外のベンチのみになっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>位牌や机など大切なものの持ち込みもされている。また、現在はコロナの為看取りの家族のみではあるが、泊まれるようにしている。</p>	<p>畳敷きの居室は掃出し窓や腰高窓で明るく余裕のある広さで、エアコン、ベッド、タンス、クローゼット、トイレが備えてあり、利用者の状況を考慮しながら配置している。利用者の意向を確認しながら整頓や清掃等を支援し、家庭同様に快適な生活となるように努めている。利用者は位牌や愛着のある小物、家族写真、使い慣れた寝具、テレビ、机等を持ち込み、また、自分の作品や敬老祝いの彰状等も飾って居心地の良い居室となっている。また終末期の家族が宿泊できるような配慮もされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の心身の状態に応じて、環境を整えている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない (コロナの為)

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない